

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学
学長選考会議（平成27年度第2回）議事要旨

- 1 日 時 平成27年11月26日（木）13:00～14:00
- 2 場 所 奈良先端科学技術大学院大学 事務局3階 会議室
- 3 出席者 矢嶋議長
小山、田中、土井、野間口、小笠原、箱嶋、垣内、松本、寶學、片岡、
横矢、中島の各委員
出席監事 野口監事
陪席者 尾原企画・教育部長、西山企画総務課長
- 4 配付資料
資料1 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学学長選考会議
（平成27年度第1回）議事要旨（案）
資料2 本会議における検討事項について
参考資料1 文部科学省通知 抜粋
資料3-1 学長選考基準について
3-2 他大学の学長選考基準（資質・能力）の表現の事例
3-3 他大学の学長選考基準に使用されている単語と使用回数
参考資料2 他大学の学長選考基準
資料4-1 学長の業務執行状況の確認方法について
4-2 他大学における学長の業務執行状況の確認（事例）
資料5-1 学長の任期について
5-2 学長任期と中期目標期間との関係
5-3 学長任期の現状
参考資料3 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学
学長選考会議（平成23年度第1～3回）議事要旨 抜粋
資料6-1 学長選考方法について
6-2 本学の学長選考方法
6-3 他大学の学長選考方法の事例
参考資料4 前回の学長選考の流れについて
- 5 議 事
(1) 前回議事要旨の確認について
資料1の前回（平成27年度第1回）の議事要旨（案）について、原案どおり承認された。

(2) 本会議における検討事項について
①学長選考基準について
事務局から、資料2に基づき、本日と今後の予定について説明が行われた。
次に、資料3-1～3に基づき、学長選考基準について他大学の状況等を含め説明が行われた後、意見交換が行われた。

(主な意見等は、次のとおり)

- ・来年度から第3期中期目標期間が始まるタイミングであるので、第3期中期目標を十分に把握し、継承していける人がふさわしいのではないかと考える。
- ・社会から見ると、奈良先端大は大学院大学であるところに大きな期待が寄せられているところであり、その期待に応えられるようなリーダーシップを発揮していける人がふさわしいのではないかと考える。
- ・グローバル化に関しても、大学院大学として社会を牽引していけるようなリーダーシップを発揮できるという観点が必要であると考えます。
- ・基準に盛り込む必要はないと考えるが、幅広い人脈やコネクションを開拓し、コミュニケーションを取りながらビジョンを設定していける能力も必要ではないかと考える。

②学長の業務執行状況の確認方法について

事務局から、資料4-1～2に基づき、学長の業務執行状況の確認方法について他大学の状況等も含め説明があり、選考会議と監事の役割に関する質疑が行われた後、意見交換が行われた。

(主な意見等は、次のとおり)

- ・学長の業務執行状況の確認については、定期的に業務執行状況を把握している監事との意見交換を行った上で、その結果を踏まえて、学長のヒアリングを行うことが望ましいと考える。

③学長の任期について

事務局から、資料5-1～3に基づき、学長の任期について他大学の状況等も含め説明が行われた後、意見交換が行われた。

(主な意見等は、次のとおり)

- ・現在の4年という独自性のある任期にメリットや理由があるなら、今後も継承されたらよいと考える。
- ・前回の学長選考時に学長の任期について議論した時は、学外委員から、任期を中期目標期間の6年に合わせるのが効率的という意見があったが、これまで任期4年で問題が起きていないということと、科学技術の進展に応じて学長の交代も比較的回転が速いほうがよいのではないかと理由から、任期4年となったと承知している。
- ・若い組織であるので、新陳代謝が活発であることが大学の大きな活力になるのではないかと考える。
- ・4年+2年の任期とする場合は、中期目標期間のどのタイミングで交代するかが重要になる。

④学長選考方法について

事務局から、資料6-1～3に基づき、学長選考方法について他大学の事例も含め説明が行われた後、意見交換が行われた。

(主な意見等は、次のとおり)

- ・意向投票結果を参考にするというのは、意向投票結果も含めて総合的に判断するというこ
とで、投票結果と異なる結論もあり得るが、その場合は説明責任の観点からも十分な説明
が必要と考える。
- ・任期について再任無しとする場合は、これまでの選考において特に問題は起きていないの
で、ほぼ現行の選考方法でもよいと考えるが、再任有りとする場合は、再任手続きについ
ても検討する必要があると考える。
- ・現行の選考方法では、候補者と面接するのは選考会議だけであるので、構成員からの質問
に対する候補者の回答を公開するようなプロセスがあるとよいのではないか。

(3) その他

今後は、追加の意見等について事務局から照会を行い、当該意見等を踏まえて、事務局で
各検討事項の素案を作成し、次回1月25日の本会議で審議することとした。

また、議長から、次回は所用で欠席するため、議長代行である野間口委員に議事進行をお
願いする旨の説明があった。

以 上